「笑顔あふれる幸せづくり」を実現するために

私たちは、「笑顔あふれる幸せづくり」という経営理念のもと、
あらゆる事業活動を通じて社会に貢献することを目指しています。
この理念を未来にわたって体現し続けるためには、
事業を取り巻く多様な社会的責任と真摯に向き合うことが不可欠です。
人々の豊かな暮らしや持続可能な社会の実現に向けて、
自社が関わるべき重要な社会課題を深く認識し、
その解決に向けた取り組みを推進してまいります。



サステナビリティの基本的な考え方

当社は、「笑顔のみなもと」への想いを大切に、さまざまな課題に対して「特色あるNo.1を目指すために常にイノベーションを起こす」心構えで取り組み、解決を目指します。付加価値を創造し続けながら「食の安心と楽しさ」を提供していくために、常に食の安全を第一に考え、それを実現する全従業員を大切にして豊かな人間性をはぐくみます。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体を通じて人と環境を思いやり、「笑顔あふれる幸せづくり」に貢献します。

1 安全で高品質な商品とサービスの提供

多様なニーズにこたえ、高い安全性と品質、安定した供給を実現し、お客様と社会からの信頼を獲得します。

2 働きがいの向上と多様性の尊重

多様な人財がやりがいをもって個々の能力を最大限に発揮できる環境を実現すべく、能力開発機会の提供、従業員エンゲージメントの向上、労働安全衛生の確保に努めています。

3 持続可能な製品イノベーション

新たな商品やサービスを創り出し、事業を通じてお客様および社会の課題を解決します。

4 環境負荷軽減への継続的挑戦

事業活動、商品、サービスが環境に与える影響を評価し、温室効果ガス排出の削減、食品廃棄物の発生抑制などに努めます。

5 社会課題解決への対応

地域やお客様、従業員との対話を大切にし、社会課題の解決に貢献して企業価値を高めます。

6 コンプライアンスの徹底とコーポレートガバナンスの充実

法令遵守はもちろん、高い倫理観に基づいた誠実な企業活動を実践するとともに、ステークホルダーとの対話や情報開示を通じて、公正で透明性の高い経営を推進します。

マテリアリティ特定プロセスとその結果

持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指し、2026年1月にマテリアリティを特定いたしました。
これは、当社が社会と共に持続的に成長していくための羅針盤となるものです。
特定にあたっては、4つのステップで体系的に進めました。

STEP1
SDGs、GRIスタンダード、SASBスタンダード、TCFD、国連グローバル・コンパクトなど国際的に認知されたフレームワークを参考に、中長期的なメガトレンドを踏まえた社会課題・環境課題のロングリストを作成しました。

STEP2
当社の企業理念、経営理念、行動指針との整合性を検証しました。同時に、同業他社のマテリアリティも参照し、食品業界における共通課題と当社独自の課題を見極めながら、優先的に取り組むべき課題を抽出いたしました。

STEP3
抽出した課題をE(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)の3つのカテゴリーに分類し、環境分野2項目、社会分野9項目、ガバナンス分野4項目の計15の課題を整理しました。

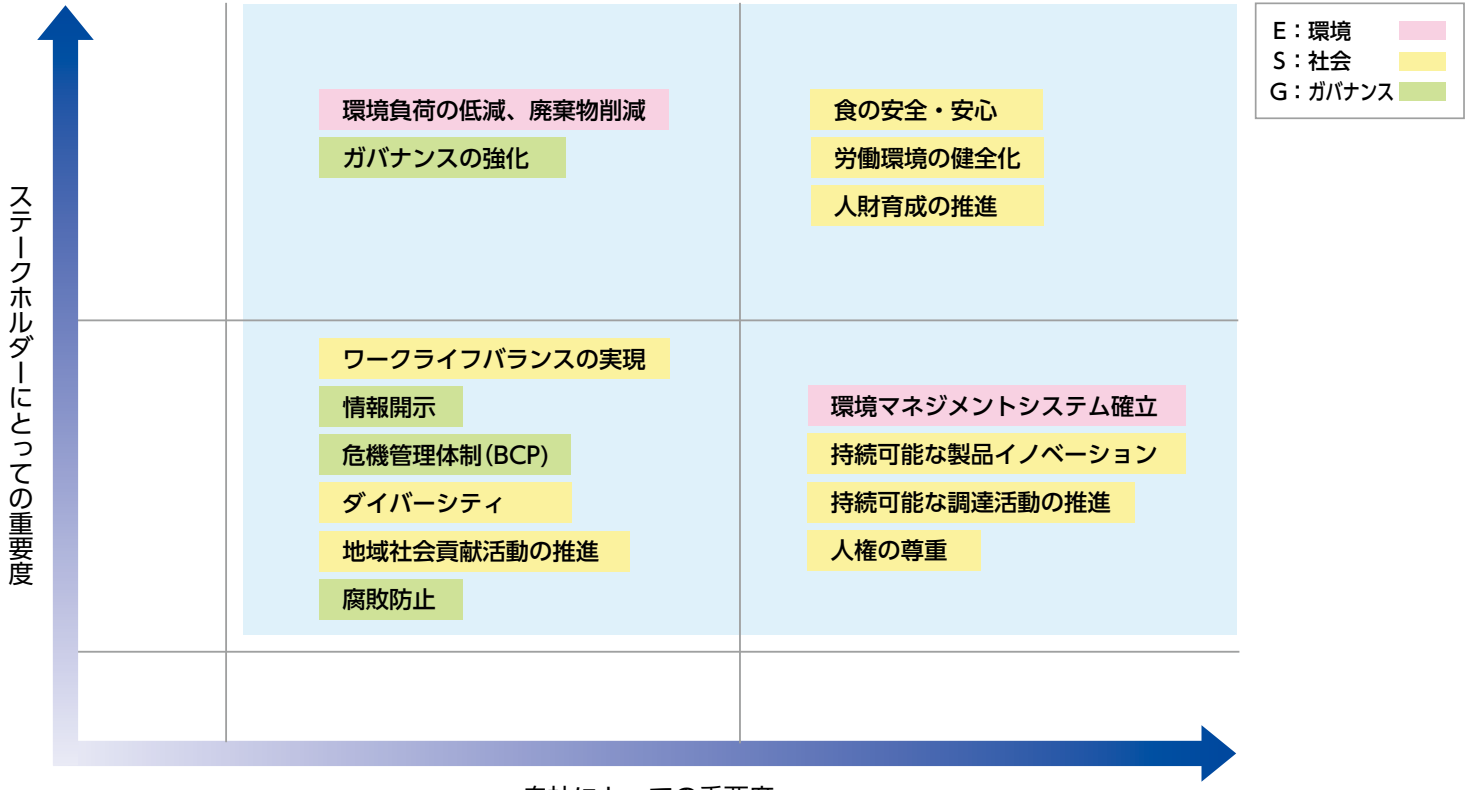
STEP4
「ステークホルダーにとっての重要度」と「自社にとっての重要度」の2軸でマトリクス評価を実施し、両軸において高評価となった課題を重要課題として特定いたしました。



特定された重要課題

この結果、最重要課題として「食の安全・安心」「労働環境の健全化」「人財育成の推進」をはじめ、「環境負荷の低減・廃棄物削減」「ガバナンスの強化」(危機管理体制、腐敗防止)「持続可能な製品イノベーション」「環境マネジメントシステム確立」等計15個のマテリアリティを特定いたしました。

次年度に、各マテリアリティに含まれるKPI及び各目標を設定してまいります。



サステナビリティ推進体制

サステナビリティ推進体制は、トップダウンとボトムアップの両方のアプローチを組み合わせることで、全社的な取り組みの実効性を高めています。
2024年にサステナビリティ推進部を発足し、サステナビリティの推進・継続的な改善を図っています。

取締役会

サステナビリティに関する方針や重点課題は、取締役会の監督のもと、策定・推進されています。当社では、議長である社長を中心として重点課題の承認・監督を行っています。

社長～推進体制の構築～

社内横断的な取り組みを確実に推進するため、社長が中心となり、全社方針の策定、進捗報告、課題共有、改善提案を行っています。

サステナビリティ推進部の役割

- サステナビリティに関する全社方針策定
- サステナビリティ推進に関わる目標及びKPI管理
- サステナビリティに関する各種施策のモニタリング
- サステナビリティレポートの発行

各部門

現場に根ざした施策の展開と情報の双方向共有を目指し、各工場・事業所との情報共有・展開を促進しています。

サステナビリティ経営への挑戦
生産・開発・IT部門から紐解く
統括役員インタビュー

「笑顔のみなもと」である食の安全を第一に考え、
働く人々の環境を整えること。そして、デジタル技術の活用や
環境配慮への取り組みを通じて持続可能な社会への貢献を果たすこと。
生産・開発・ITを統括する常務取締役 平田 亘宏が、
当社のサステナビリティにかける思いと今後の戦略について語ります。



常務取締役　平田 亘宏

SUSTAINABILITY STRATEGY

持続可能な成長に向け、優先すべき課題は何でしょうか？

消費者の方々に安全な製品をお届けする「食の安全」と、従業員の労働環境が安全で衛生的である「労働安全衛生」です。食の安全を支えているのは日々働く従業員であり、人財の確保と育成が急務です。国内全4工場でISO45001認証を取得し、労働災害リスクの低減に努めています。

ENVIRONMENT & INNOVATION

環境対応における最大の課題と、その対策を教えてください。

最大の課題はCO_2排出量の削減です。2030年までに2013年比で46%削減という目標達成へ向け、製造ラインの効率化や省エネ設備の導入を進めています。また、各工場で太陽光発電やバイオガスボイラーなどの再生可能エネルギーを導入しており、今後は設備更新と運用最適化を徹底していきます。

FOOD SAFETY & IT

**食の安全と、それを支えるITやシステム活用について
お聞かせください。**

品質管理体制の徹底が最重要です。
FSSC22000取得に基づく高度な衛生管理を維持し、「重大品質事故ゼロ」を継続します。また、原材料調達から製品出荷までの追跡可能性（トレーサビリティ）を保証する仕組みも不可欠であり、特に生産ラインにおけるデータ取得や記録の効率化が今後の大きな課題になると認識しています。

SOCIAL RESPONSIBILITY

**地域社会との共生やサプライチェーンへの
責任についてどうお考えですか。**

フードバンクや地元農家との連携など、地域との共生は持続的な事業基盤につながります。サプライチェーンにおいては、サプライヤー管理を含むガバナンスの徹底が必要です。安定供給を維持しつつ、環境配慮も両立することが、私たち生産部門の重要な責務です。

HUMAN CAPITALとFUTURE VISION

**人財育成で重点となる分野と、
生産性向上のための今後の投資について教えてください。**

生産部門における技能継承に加えて、デジタル化に対応できる人財（デジタルスキル育成）が重点課題です。さらに、女性の活躍推進や外国人従業員のサポート等、誰もが働きやすい職場環境の整備と、国際化が進む現場に合わせたマネジメント体制の強化を進めます。同時に、生産工程の省人化を推し進めることで、生産性の向上だけでなく、働く環境の改善など幅広い効果が期待できます。